

## 第6章 今後のパブリックスペースを活用した取組について

第6章では、市民や事業者等の意見を踏まえ、今後のパブリックスペース活用の望ましい方向性、考えられる取組及び実施手法について整理する。

### (1) 現状と課題

#### ア これまでのパブリックスペース活用の経緯

つくば市では、平成23年(2011年)からパブリックスペースの活用における取組が進められてきた。

- ① 公共空間上の活用方策の検討(平成23年(2011年))
- ② 公共空間活用実証実験(平成23年(2011年)～平成28年(2016年))
- ③ つくばペデカフェプロジェクト(平成28年(2016年)～令和4年(2022年))
- ④ 新つくばペデカフェプロジェクト(令和5年(2023年)～)

#### ① 公共空間上の活用方策の検討(平成23年(2011年))

##### ■背景と課題

つくば市では、国策によって計画的に都市が整備された結果、他都市にはない特徴ある街並みが形成され、特に総延長約48kmのペDESTリアンデッキ(歩行者専用道路)や、それに隣接して配置された公園や広場などの公共空間が特徴的な街並みを創出していたが、平成23年(2011年)当時、以下の課題が顕在化していた。

- ・公共空間を考慮していない建築物が建設されている。
- ・多くの公共空間が配置されているが、利用者が少ない。
- ・夜間は暗いことなどにより、防犯上の課題が存在する。
- ・自転車と歩行者の安全対策を行う必要がある。

つくば市は、これらの課題を解決し魅力ある街並みを創出するため、有識者会議である「つくば市公共空間活用検討会議」(有識者会議)を開催し、公共空間に以下の役割が求められていると分析した。

- 公共空間と隣接地が一体化した空間の確保
- 生活に密着し、楽しみを与える道路としての新たな役割
- 防犯上の対応

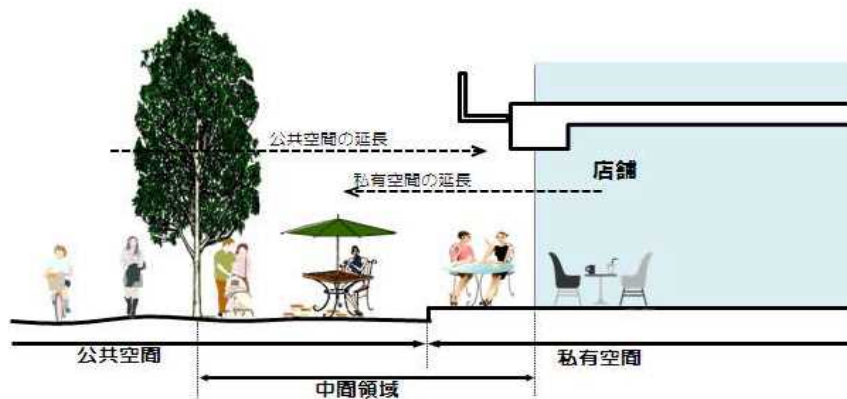
## 第6章 (1)現状と課題

### ■将来像と方針

公共空間を活用し、上記の役割を担うものとするとともに、魅力的な街並みを形成するため、つくば市は、公共空間と店舗等私有空間の間の空間を「中間領域」と称し、この中間領域を活用することが重要であるとする将来像と、それを実現するための3つの方針とつくば市としての役割を以下のとおり掲げた。(平成23年(2011年))

#### A) 公共空間の将来像

つくばの都市の骨格となる新たな公共空間の創出  
～公共空間と私有空間の中間領域の活用～



#### B) 方針

- 公共空間自体を活用したまちの憩いの場、にぎわいの場の創出
- 公共空間が都市の骨格となり、だれもが快適に利用できる空間の創出
- 子どもから高齢者まで、いつでも安全安心に利用できる公共空間の創出

#### C) つくば市の役割

- 公共空間を活用しやすくする誘導方策の実施
- 公共空間を活用できるようなバックグラウンドの整備
- 市による魅力的な公共空間の整備

### ■制度による公共空間活用手法

将来像及び方針から市の役割を整理した結果、つくば市は、「公共空間を活用するための条例等の制度を定め、公共空間の活用や沿道誘導を推進すること」を第一目的とすることとし、下記の活用手法を中心に公共空間活用の制度化を図っていった。

- A) オープンカフェなどによる公共空間自体の活用
- B) 公共空間隣接建築物等の誘導
- C) 歩行者・自転車の安全確保等

## 第6章 (1)現状と課題

このうち、Bの「公共空間隣接建築物等の誘導」については、地区計画への反映を進め、Cの「歩行者・自転車の安全確保等」については、「つくば市自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」の施行（平成26年（2014年））によって実現していった。

Aの「オープンカフェなどによる公共空間自体の活用」については、実証実験を行いながら課題を整理した上で、制度等を検討することとした。

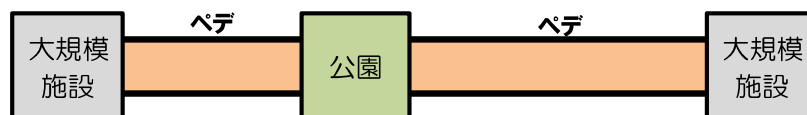
### ② 公共空間活用実証実験の実施（平成23年（2011年）～平成28年（2016年））

#### ■目的

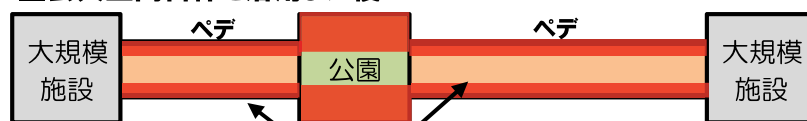
つくば都心地区の現状として、商業施設や公共施設が点在して立地し、それを結ぶようにペDESTリアンデッキが設置されているが、ペDESTリアンデッキや沿道には商業施設等の楽しみを与える施設がないため歩く人が少なく、また沿道には既に公共施設、駐車場、マンション等が立地しており、今後活用できる土地が少ないという課題がある。

そのため、つくば市は、各施設間のペDESTリアンデッキ等の公共空間自体に店舗等を設置し、様々な活用を行うことで、つくば都心地区の各施設をつなげ街並みを一体化し、回遊性を向上させることにより、都市の魅力向上やにぎわいの創出を目指した。

#### ■現状



#### ■公共空間自体を活用した後



#### 活用形態のイメージ

##### ●オープンカフェ、移動販売、仮設販売 等

→飲食や物品の販売による賑わい・交流の場の提供

→オープンカフェや休憩スペースを設置することによるくつろぎの場の提供

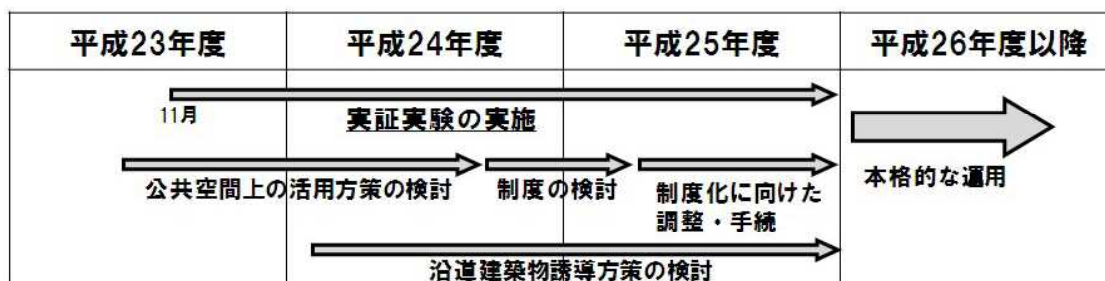
##### ●イベント活動、発表の場

→市民や研究者等が展示・発表ができるスペースを設置し、情報発信と交流の場の提供

## 第6章 (1)現状と課題

### ■実施時期

公共空間活用実証実験は、平成23年(2011年)11月から開始した。平成25年(2013年)度中に制度整備を図り、平成26年(2014年)度からその制度に基づいた本格運用を平成28年(2016年)まで実施した。



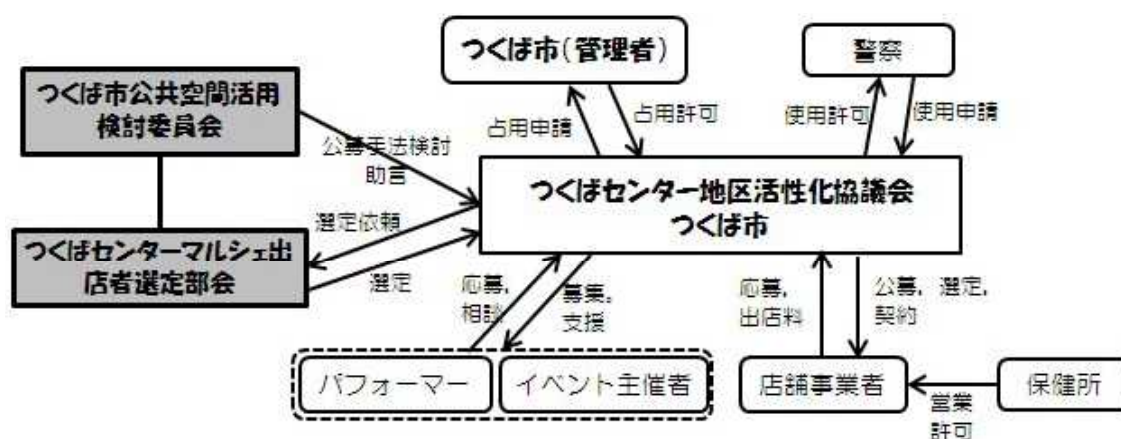
### ■体制

実証実験を効果的に実施するために、関係機関と協力して実施した。

- A) 実施主体：つくば市、つくばセンター地区活性化協議会(※<sub>1</sub>)  
 ※<sub>1</sub>つくばセンター地区に立地する企業等で構成した組織
- B) 検討機関：つくば市公共空間活用検討委員会(※<sub>2</sub>)  
 ※<sub>2</sub>有識者及び商工観光関係者、行政関係者等で構成する組織  
 委員長：筑波大谷口教授、事務局：つくば市

#### C) 基本的な役割

- つくば市  
 ：道路、公園、広場の占用許可申請  
 道路許可申請(警察)  
 公共空間利用のルールづくり  
 運営補助、各種調整
- つくばセンター地区活性化協議会  
 ：実証実験の運営、実施店舗募集
- つくば市公共空間活用検討委員会  
 ：実証実験に関する助言  
 公募実施時の店舗選定



## 第6章 (1)現状と課題

### ■実施形態

実証実験では、以下の3つの形態で検証を行った。

#### A) 地先利用型

公共空間沿道の既存店舗の前にテーブルやいす、パラソルなどを設置し、既存店舗の店舗スペースを拡大する形態

#### B) ワゴン販売型

公共空間自体に物販、飲食等の移動販売車やテーブル、いす、パラソル等を設置し、新たな簡易店舗を設ける形態

#### C) テント等配置型

公共空間自体に物販、飲食等のテントや簡易施設によって簡易店舗を設ける形態



### ■実施内容

| No | 実施名                         | 場所         | 形式   | 期間                                                                     |
|----|-----------------------------|------------|------|------------------------------------------------------------------------|
| 1  | オークラフロンティアホテル<br>つくば「カメラリア」 | センター<br>広場 | 地先   | H23.11.18～                                                             |
| 2  | つくばセンター広場ビアテラス              | センター<br>広場 | 地先   | H24～（夏期期間）                                                             |
| 3  | ライトオン                       | センター<br>広場 | 地先   | H25.4.27～                                                              |
| 4  | 市民活動センター                    | センター<br>広場 | 地先   | H26.6.1～                                                               |
| 5  | つくばセンター移動マルシェ               | センター<br>広場 | ワゴン  | H23.12.2～ H24.8.17                                                     |
| 6  | つくばセンターマルシェ                 | センター<br>広場 | ワゴン等 | H24.8.18～                                                              |
| 7  | つくばクラフトビアフェスト               | センター<br>広場 | テント等 | ①H24.9.28～9.30<br>②H25.5.24～ 5.26<br>③H26.7.4～ 7.6<br>④H27.7.24 ～ 7.26 |
| 8  | オーガニックファーマーズビ<br>レッジ        | センター<br>広場 | テント等 | H23.11 ～ H25                                                           |
| 9  | 食と酒 東北祭り                    | センター<br>広場 | テント等 | ①H26.3.21、22<br>②H27.10.17、18                                          |

## 第6章 (1)現状と課題

|    |                            |            |      |                                              |
|----|----------------------------|------------|------|----------------------------------------------|
| 10 | ゆいまつり                      | センター<br>広場 | テント等 | ①H25.3.9<br>②H26.3.8<br>③H27.3.8<br>④H28.3.6 |
| 11 | プレミアムビールとうまいもの祭り           | センター<br>広場 | テント等 | ①H26.9.12 ~ 9.14<br>②H27.9.19 ~ 9.23         |
| 12 | 真夏のビールとハイボールガーデン           | センター<br>広場 | テント等 | H27.8.4 ~ 8.10                               |
| 13 | TSUKUBA HALLOWEEN FESTIVAL | センター<br>広場 | テント等 | H27.10.31                                    |
| 14 | つくばペデタウン（一体化実験）            | つくば駅<br>周辺 | 複合   | ①H26.11.7 ~ 11.9<br>②H27.9.19 ~ 9.21         |

### ■効果検証と課題

#### A) 公共空間自体を活用することについて

- 公共空間を活用することにより、都市の魅力創出やにぎわいの創出に一定の効果が見られた。
- ペDESTリアンデッキ（道路）や公園、広場などの公共空間を本来の目的以外である路上店舗やオープンカフェなどに使用することについて、大きな課題は見られなかった。また、公共空間を様々な手法で活用することにより、市民の満足度の向上に寄与するなどの効果も見られた。
- 公共空間を活用し、にぎわいを創出させるためには、公共空間で実施するイベントを熟知し、様々な調整を行う「公共空間活用コーディネーター」の存在が必要である。
- 今後、にぎわい創出や回遊性向上のためにはどのような活用方法が効果的であるのか、更に効果を向上させるためには運営方法や実施内容はどうか等を検証する必要がある。

#### B) 出店料、道路占用料について

- 公益目的であっても、行政及び特定の団体以外のものがイベント等を行う際には、占用料等が発生する。しかし、イベントによっては占用料を支払うことが難しい取組も存在することから、公共空間活用の促進のために、無償とする仕組みを検討する必要がある。
- 公共空間を積極的に使用させることにより、占用料の増収が見込める。その収入を公共空間の修復や魅力向上のための改修などに使用する仕組みを検討する必要がある。
- つくばセンター地区活性化協議会においても、店舗から占用料とは別に運営費を徴収し、地域活性化のためのイベントなどに使える仕組みを構築する必要がある。



## 第6章 (1)現状と課題

### C) 運営体制について

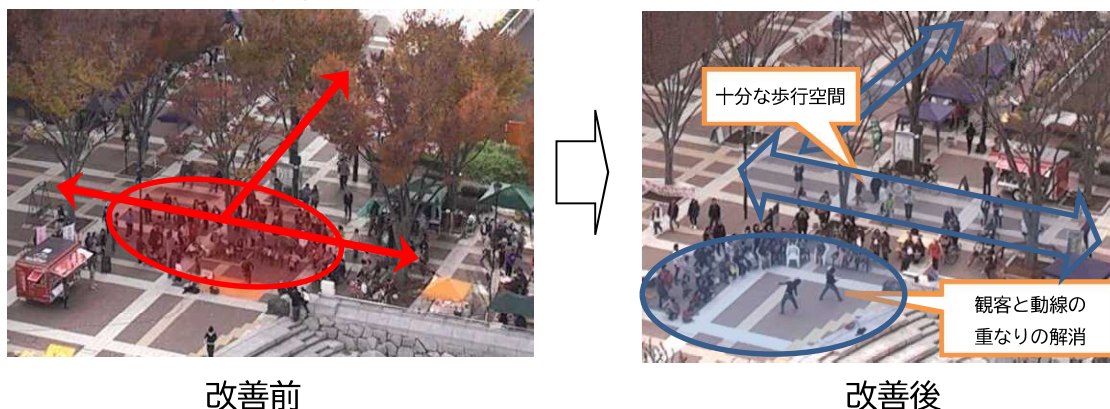
- 公共空間自体に新たな路上店舗を設ける取組の場合は、つくばセンター地区活性化協議会等に大きな作業量が発生する。今後、できる限り簡単に運営できる仕組みを確立する必要がある。
- 実施にあたっては、つくば市及びつくばセンター地区活性化協議会が主体的に実施したが、商業運営等に関する知識が不足していたため非常に苦戦を強いられた。そのため、商業施設運営者等と協力する等、民間のノウハウを導入した取組が必要である。

### D) 法的手続について

- 公共空間を占有する際に、道路管理者や交通管理者へ公共空間の種類に応じた様々な手続が必要となる。初めて公共空間を利用する人にとっては複雑であるため、手続を簡素化するとともに、手続方法を説明したガイドラインなどを作成する必要がある。
- 道路使用許可（警察への手続）は、現在同じ取組を継続して実施する場合においても最長1ヶ月間の許可となっている。実施事項が変わらないのであれば、ある程度長期間の申請が可能となるよう検討を依頼する必要がある。

### E) 歩行者・自転車の挙動（動線）について

- 公共空間自体に店舗等を設置することでどのような課題があるかをビデオによる定点観測によって検証したところ、大きな問題は生じなかったものの、実施内容によって滞留する人の量が大きく異なり、通行の妨げになるような場合があった。そのため実施内容に応じて滞留スペースを考慮した上で場所を選定するよう調整する必要がある。



- 公共空間は自転車の通行も制限していないため、歩行者・自転車の交通量が増加すると、それらが錯綜するなどの課題が生じた。そのため、つくばにおける自転車・交通利用ルールを検討する必要がある。

## 第6章 (1)現状と課題

### F) 実証実験利用者数及び経済効果（平成24年（2012年）11月末時点）

- 合計利用者は、2.1万人を超えており、実証実験によってつくば都心地区のにぎわい創出に貢献している。
- 常設で実施しているつくばセンターマルシェは、毎日70人近くの人を利用しており、つくば都心地区の新たなスポットとなってきた。
- 地先利用を実施している「カメラリア」の利用者数は、他に比べ少ないため、利用増加に向けた対策を取る必要がある。
- 経済効果（売上げ）は推計4千万円に達しており、公共空間自体を活用する取組は、経済活性化への役割も果たしている。
- 今後は、経済効果が周辺店舗にどの程度波及しているのかを調査し、つくば都心地区全体の経済が活性化する手法を検討する必要がある。

| 実施名                     | 実施月数 | 合計利用者数  | 日利用者平均  | 経済効果<br>(推計) |
|-------------------------|------|---------|---------|--------------|
| オークラフロンティアホテルつくば「カメラリア」 | 12ヶ月 | 727人    | 1.97人   | 1,454,000円   |
| つくばセンター移動マルシェ           | 1ヶ月  | 531人    | 59.0人   | 265,500円     |
| オーガニックファーマーズビレッジ        | 9回   | 2,949人  | 327.7人  | 1,474,500円   |
| つくばセンター広場ビアテラス          | 3ヶ月  | 9,747人  | 138.0人  | 29,241,000円  |
| つくばクラフトビアフェスト           | 2日   | 3,200人  | 1600.0人 | 6,400,000円   |
| つくばセンターマルシェ             | 3ヶ月  | 4,492人  | 69.9人   | 2,971,742円   |
| 合計                      |      | 21,646人 | 60.1人   | 41,806,742円  |



## 第6章 (1)現状と課題

### ③つくばペデカフェプロジェクト（平成28年（2016年）～令和4年（2022年））

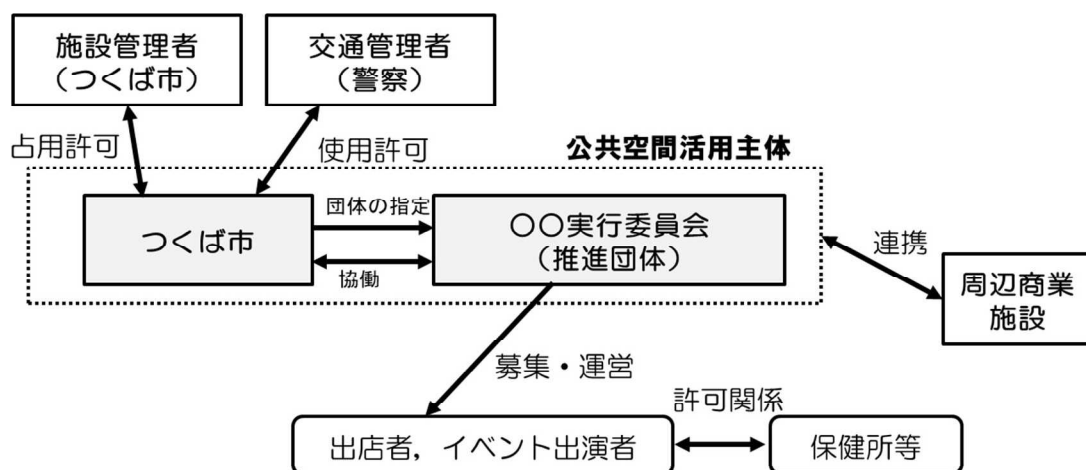
平成28年（2016年）まで実施した「公共空間活用実証実験」の実施と検証により、市と地域の団体がその役割を分担し協働して実施することに一定の効果が見られたことなどを踏まえ、平成28年（2016年）6月に市内のペデストリアンデッキを活用したまちづくりを推進する「つくばペデカフェプロジェクト」を開始した。

#### ■取組の手法

つくばペデカフェプロジェクトは、以下の手法により取組を進めた。

##### A) 地域と市によるペデカフェ創出事業

ペデカフェ推進要項を策定し、地域の方々と市が協働でオープンカフェやイベントなど様々なソフト的な取組を行うことで、都市の魅力向上とにぎわいを創出する。



##### B) 市による魅力的な公共空間の創出

市が公共空間自体に様々な仕掛けの設置や活用がしやすい形態への改修、常設店舗の設置などを実施し、人々が楽しく滞在できるようにする。（屋外コワーキングスペースや中央公園におけるバーベキュー場等を実施）

## 第6章 (1)現状と課題

### ■具体的な取組

#### A) 地域と市によるペデカフェ創出事業

つくばペデカフェ推進要項に基づき、地域の方と協働で取り組むイベント支援を実施した。

#### ○市と団体の役割

##### 市の役割

- ・企画内容のアドバイス、コンテンツ提供
- ・各種手続きの実施（つくば市、警察署等）
- ・物品の貸出
- ・広報の支援

##### 団体の役割

- ・運営に係る事項

#### ○手続きフロー

##### Step1 事前相談

ペデカフェプロジェクトとして行う取組に該当するかの事前相談

##### Step2 ペデカフェ推進団体の指定

要項に基づき、ペデカフェ推進団体に該当するか審査を行う

##### Step3 企画内容についての打合せ

具体的な取組内容についての協議

##### Step4 実施に向けた各種調整、必要書類作成

実施に向けた詳細な調整や書類等の作成

##### Step5 各種許可申請手続き

道路使用許可などの手続き

##### Step6 実施、開催

#### ○つくばペデカフェ推進団体の指定

##### 指定できる団体のイメージ

都市の魅力創出やにぎわい創出など公共公益目的である団体。利益目的の団体は該当ないため、一個人や一企業では申請できない。

##### 団体の指定要件

- ・団体の活動目的が公共公益目的であること
- ・公共空間を活用できる数の構成員がいること

#### ○利用実績（イベント数及び来場者数）

「プレミアムビールとうまいものまつり」や「つくばクラフトビアフ

## 第6章 (1)現状と課題

エスト」などをはじめとする酒に関するイベントのほか、「つくばパンまつり」や「コーヒーフェスティバル」などの飲食イベントが多く開催された。

そのほか、「ランタンアート」をはじめとした文化イベントや、「インドネシア日本友好祭」など国際色のある音楽イベントも開催されている。

※来場者数は、カウントや売上高からの推計値

※つくばセンターマルシェやプレイスメイキング事業は除く

平成 28 年度 (2016 年度) 63,689 人 (13 イベント)

平成 29 年度 (2017 年度) 74,890 人 (15 イベント)

平成 30 年度 (2018 年度) 93,397 人 (13 イベント)

令和 元年度 (2019 年度) 118,889 人 (23 イベント)

令和 2 年度 (2020 年度) 8,762 人 (8 イベント)

令和 3 年度 (2021 年度) 6,479 人 (10 イベント)

令和 4 年度 (2022 年度) 72,442 人 (20 イベント)

### B) 市による魅力的な公共空間の創出

市による魅力ある公共空間の創出に向け、以下の取組を実施した。

a. 都心地区一体化実験 (平成 27 年 (2015 年))

b. 公園を活用した新たな取組 (平成 30 年 (2018 年))

c. パブリックスペース活用実験 (令和元年 (2019 年))

d. ソトカフェ (with コロナの取組) (令和 2 年 (2020 年))

#### a. 都心地区一体化実験 (平成 27 年 (2015 年))

つくばセンター広場だけにとどまらず、公共空間の活用により、つくば都心地区全体のにぎわい創出や回遊性の向上、まちの一体化が図れるかを検証するため検証実験を行った。

#### □取組内容

##### i) ロードトレイン (ペデトレイン) 運行

つくばセンター地区内の単距離の移動を容易にし、回遊性を高めるため、ペDESTリアンデッキ上を走るロードトレインの運行を3日間実施した。多くの利用があり、将来有料でも利用したいとの声も多くあげられたことから、ちょっとしたモビリティをまちなかに導入することで回遊性が高まることがわかった。

##### ii) バーベキューパークの運営

つくばセンター地区の中央から南側のブロックへの回遊を促すため、また、周辺商業施設における経済効果 (バーベキューに必要な食材の購入) をねらいとし、つくばセンター地区南側にある商業

## 第6章 (1)現状と課題

施設（デイズタウン）の駐車場敷地を活用してバーベキューパークを開設した。

iii) 路面サイン及び市内研究施設紹介ソフトクロスの作成と設置  
回遊を誘導する仕掛けとして、路面サイン及び市内研究施設を紹介するソフトクロスの作成及び設置を行った。

iv) 民間が主体となって実施した取組  
実施エリアでの集客やエリア間の回遊性の向上を目的とし、以下の取組を実施。

- プレミアムビールとうまいもの祭り、アロハキッチンタケオオープンカフェ  
茨城やつくばのグルメを提供する2イベントをつくばセンター広場で開催した。
- 声援団&時空戦士イバライガーチャリティーイベント 2015  
有名声優を中心に結成された「声援団」とイバライガーのチャリティーイベントを中央公園の特設ステージで開催した。
- アウトドアパーク  
アウトドアショップの協力のもと、中央公園内にテント等のキャンピング用品を設置し利用体験の場を提供した。
- ポニー乗馬体験  
民間業者の協力により、ポニー試乗をカピオ前広場にて実施した。
- つくばクレオスクエア秋のオープンマルシェ  
クレオスクエアにおいてオープンマルシェを開催した。

v) その他の回遊性誘導のための仕掛け

- こども用噴水設備の設置
- 街中オープンテラス
- 催し物紹介広告の配布
- お知らせ掲示板の設置
- 案内バルーン・横断幕・欄干幕の設置

□利用実績（平成27年（2015年）9月19日（土）～9月21日（月・祝）の3日間実施）

- i) ロードトレイン：延べ乗車人数3,710人、運行回数114回、平均乗車人数32.4人/回、平均乗車率89.9%
- ii) バーベキューパーク：計26組・121名（1日平均40.3名）の利用 ※うち半数が事前のメール予約

## 第6章 (1)現状と課題

### □効果

つくばセンター地区のパブリックスペースを一度に活用し、回遊性を高めることで多くの来街者が訪れ、にぎわいが創出されることがわかった。

### b. 公園を活用した新たな取組（平成 30 年（2018 年））

イベントなどの一時的な取組だけでなく、恒常的なにぎわいづくりのための取組が必要であるとの考えから、中央公園で実験的に以下の取組を実施した。

### □取組内容

#### i) 水遊び場の整備（平成 30 年（2018 年）8 月 1 日～9 月 30 日※開放時期）

夏の子どもの遊び場として、使用されていなかった水遊び場を再生



#### ii) カヌー体験（平成 30 年（2018 年）8 月 4 日～9 月 30 日）

中央公園の特徴である大きな池を新たな遊び場とするため、カヌー体験を実施





## 第6章 (1)現状と課題

### iii) 手ぶらでバーベキュー（平成30年（2018年）8月4日～9月30日）

木に囲まれ、普段あまり使われていない場所をバーベキュー場として利活用



### iv) フラワーマーケット＆オープンライブラリー（平成30年（2018年）10月20日、21日）

中央公園の芝生広場にグランドピアノを設置して演奏をするとともに、花や雑貨などのマーケットや移動図書館による屋外ライブラリーを実施。



#### □利用実績（平成30年（2018年））

i) バーベキュー：14日間実施、10基設置（2ターン制）、1回2千円、事前予約可

- ・ 利用組数 175組 1日平均12.5組
- ・ 利用者数 925人 1日平均66人
- ・ 食材購入費：1組あたり約1万円

ii) カヌー体験：14日間実施、5艇、1回30分500円、当日受付

- ・ 利用者数 355人 1日平均25人

#### □効果

中央公園で定常的な活用を行うことで、多くの人が訪れた。訪れた方が周辺施設に回遊することで経済効果も生まれた。

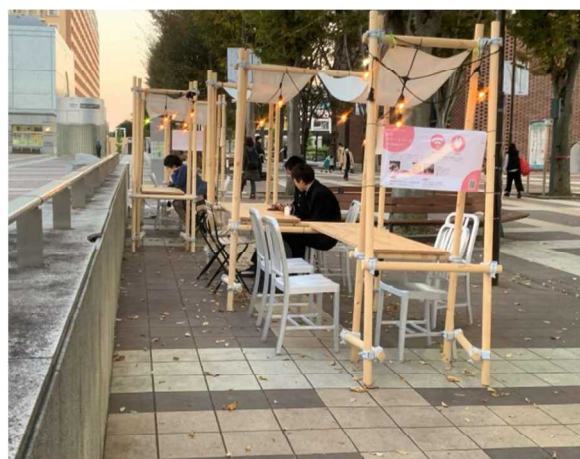
## 第6章 (1)現状と課題

### c. パブリックスペース活用実験(屋外コワーキング)(令和元年(2019年))

パブリックスペースの新たな活用方法を検討するため、アクティビティと利用者属性の多様性が低く、沿道店舗との関係性が希薄であった、ペDESTリアンデッキやセンター広場上の屋外スペースに、Wi-Fi や電源設備を完備したコワーキングスペースを設置した。(協力: up tsukuba)

#### □実施内容

- 多様なアクティビティを生み出すため、モクタンカンを用いたA型什器を配置。
- 広場全体の利用属性の多様化を図るため、学生~40代までをターゲットとした。
- 防雨型吊り下げ照明を使用し、夜間の雰囲気づくりを行うほか、電源やWi-Fi、コーヒーの移動販売車など滞留行動を生むような仕掛けを実施。
- ケヤキの間に設置する事や、着座時に広場1Fを眺められることで、景観や視点にも配慮。



#### □実施期間

令和元年(2019年)10月15日~令和元年(2019年)11月15日

#### □効果

イベントだけではなく、日常の居場所を作ることにより、仕事だけでなく、多様な活動が生まれた。

### d. ソトカフェ(令和2年(2020年))

新型コロナウイルス感染症が拡大し、3密を避けるために屋外空間の利用が推奨されていたことから、パブリックスペースを活用した With コロナ(After コロナ)のための新たな居場所づくりを行うと同時に、市内飲食店の支援を行った。



## 第6章 (1)現状と課題

### □実施内容

#### i) オープンカフェやオープンテラスの設置

センター広場の1Fやペデストリアンデッキ上にテーブルやソファ、ハンモックを設置し、そこで市内飲食店の出店やデリバリーによって飲食を楽しむなど、くつろぎの場を創出した。

ソファ 6セット(24席)

テーブル、いす 30セット(100席)

ハンモック 5台

#### ii) With コロナ対策イベントへの支援

新型コロナウイルス感染症の感染状況による直前の中止が想定される等、イベント実施のリスクが今まで以上に高まることから、事前の実施(出費)が必要な広報について、その費用負担軽減のため、「新しい生活様式」を踏まえた市のガイドラインに合致するイベントに対し、市が費用負担を行った(最大10万円)。

#### iii) オープンテラス飲食店の実施

コロナ禍における飲食店支援や市民等が憩う魅力ある場づくりを行うことを目的に、つくばセンター広場及びつくばセンタービル1階の空き店舗を活用し、市と市内飲食店事業者の共同事業としてオープンテラス飲食店(店内席と屋外席のある飲食店)を実施した。

### □実施期間

令和2年(2020年)9月5日～令和3年(2021年)3月31日(テーブルやソファ等の設置は現在も引き続き実施)

### □効果

テーブルと椅子を設置するのみで、人それぞれの多くの活動が生まれたことから、イベント等によらない常設のにぎわいづくりの一例を示すことができた。

### ■効果と課題

- ②公共空間活用実証実験の実施(P181の内容)を踏まえ、公共空間を活用するためのガイドラインを作成したことにより、通行者への安全確保や動線の確保など、交通面・安全面で問題は発生しなかった。
- 概ねワンストップサービス化ができたことから、イベント主催者からは、調整すべき事項が減ったことや、物品が借りることができること、広報支援をしてもらえることによってイベントが開催しやすくなったとの声が上がっている。

## 第6章 (1)現状と課題

- イベント時の TX の乗降客数が増加や、周辺の商業施設の売り上げも上がっており、にぎわいが生まれたことによる経済への波及効果が見られ、周辺の事業者からも定期的なイベント開催を望む声が上がっている。
- ペDESTリアンデッキ上を繋いだロードトレインでは、予約が埋まるなど多くの利用があったことから、設置により回遊性が高まったと言える。
- 中央公園でのバーベキュー・カヌーにおいては、市外や県外からの利用者もあり、広域から集客を見込めるなどにぎわいへの効果が高かった。
- ペデカフェの制度創設により、イベント開催における、イベント団体にとっての調整先を減少させることに成功しているが、つくばセンター地区活性化協議会も物品や広報の支援を行うことから、つくば市とつくばセンター地区活性化協議会それぞれと調整する必要がある、さらなる簡易化が必要である。

### ④新つくばペデカフェプロジェクト（令和5年（2023年）～）

平成28年（2016年）から実施してきたつくばペデカフェプロジェクトの課題を踏まえ、エリアマネジメント団体（まちづくり会社）として設立されたつくばまちなかデザイン株式会社を実施主体とし、ワンストップで団体の支援を行う「新つくばペデカフェプロジェクト」を令和5年（2023年）4月に開始した。

#### ■目的

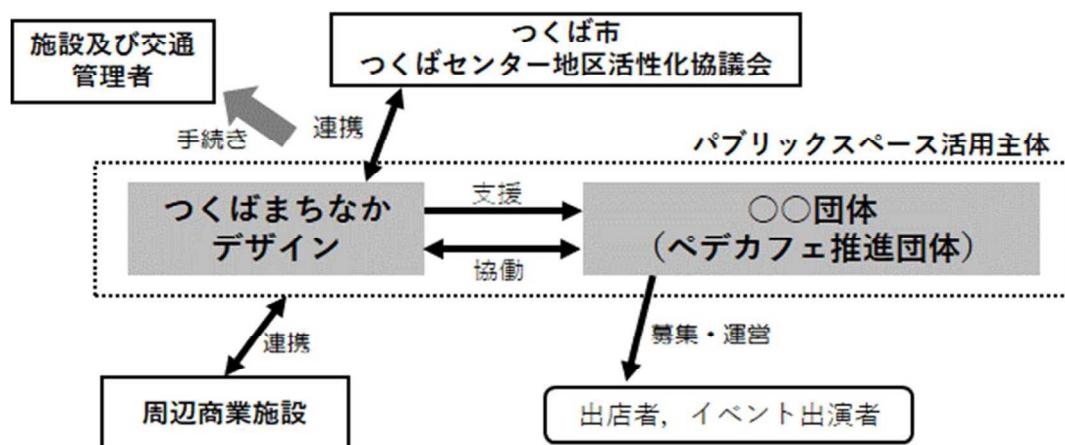
- パブリックスペースにおける様々な活動を支援することで、まちなかで常に活動が行われている状態をつくり、にぎわいの創出やまちの魅力向上を図る。
- 地域の人が自ら様々な活動を行えるような支援を行う。
- エリアマネジメント団体によるワンストップによる支援を行う。
- 魅力あるまちなかを創るため、自らパブリックスペースの活用を実施する。

#### ■支援のしくみ

以前の仕組みと異なり、つくば市とつくばセンター地区活性化協議会及びエリアマネジメント団体であるつくばまちなかデザイン株式会社が連携し、イベント団体との調整は同社が全面的に実施することで各種手続きをワンストップで実施することとした。

- 実施主体（共催）：つくばまちなかデザイン(株)
- 協力：つくば市、つくばセンター地区活性化協議会
- 支援の仕組み：パブリックスペースを活用したい団体を指定（登録）し、指定を受けた団体が支援を受けられる。

## 第6章 (1)現状と課題



### ■支援対象の取組とエリア

#### A) 支援する取組

取組の目的が非営利で、かつにぎわい創出や魅力向上に資するもの

- 多くの集客を見込むイベント
- 演奏会やパフォーマンス等
- 店舗の前におけるオープンカフェ

#### ※非営利の判断基準

- a. 取組全体の目的がにぎわい創出等の公共公益目的である  
(イベント等に出店する個店が営利を得ることは問題ない)
- b. イベント等での利益を個別に分配しない
  - ・ イベントで発生した利益を次のイベントに充当することは可
  - ・ 実行委員等の人件費に充てることは可

#### B) 対象エリア

つくば駅周辺を中心とする研究学園地区の公共空間

### ■支援する事項

以下の事項を支援する。

- 企画内容のアドバイス、コンテンツ提供
- 各種手続きの実施（つくば市、警察署等）
- 物品の貸出
- 広報の支援

## 第6章 (1)現状と課題

### ■支援を受けるための手続き

- STEP 1 事前相談（該当する取組かどうか含め相談）  
支援に該当するかや企画を考える上でのアドバイスを実施
- STEP 2 支援申請  
要項に基づき団体指定の申請を実施
- STEP 3 共催許可書発行  
当社から支援をする旨の通知を発行
- STEP 4 支援の実施  
打合せ等を行い、支援を実施
- STEP 5 実施報告の提出（費用の精算）  
イベント等の終了後、費用も含めた報告書を提出

### ■実績

A) 令和5年（2023年）4月から12月までの8か月間の新ペデカフェプロジェクトによって開催されたイベントの実績（来場者数はカウントや売上高からの推計値）

| No. | 実施名                                         | 場所         | 期間                     | 来場者数    |
|-----|---------------------------------------------|------------|------------------------|---------|
| 1   | Happy Easter Festival<br>【雨天中止】             | センター<br>広場 | R5(2023).4.15          | 雨天中止    |
| 2   | 新酒を啗く会                                      | センター<br>広場 | R5(2023).4.22          | 500人    |
| 3   | プレミアムビールとうまいもの祭り（春）                         | センター<br>広場 | R5(2023).5.3 ~<br>5.7  | 15,000人 |
| 4   | とっておきのまちなか音楽会                               | センター<br>広場 | R5(2023).5.3           | 800人    |
| 5   | co-en FESTIVAL HAPPY<br>1st ANNIVERSARY DAY | センター<br>広場 | R5(2023).5.6           | 150人    |
| 6   | 肉肉パーク                                       | センター<br>広場 | R5(2023).5.19<br>~5.21 | 10,000人 |
| 7   | 第3回つくばパンまつり                                 | センター<br>広場 | R5(2023).5.27<br>~5.28 | 20,000人 |
| 8   | 小児がん支援のためのチャリティーマルシェ                        | センター<br>広場 | R5(2023).6.11          | 500人    |
| 9   | つくばクラフトビアフェ<br>スト 2023                      | センター<br>広場 | R5(2023).7.21<br>~7.23 | 10,050人 |

## 第6章 (1)現状と課題

|    |                             |        |                                                  |          |
|----|-----------------------------|--------|--------------------------------------------------|----------|
| 10 | ウォーターアドベンチャー2023inつくばセンター広場 | センター広場 | R5(2023).7.22<br>～7.24<br>R5(2023).7.28<br>～7.30 | 1,903 人  |
| 11 | 肉肉パーク                       | センター広場 | R5(2023).8.4 ～<br>8.6                            | 7,500 人  |
| 12 | つくば古着フェス                    | センター広場 | R5(2023).8.19<br>～8.20                           | 500 人    |
| 13 | プレミアムビールとうまいもの祭り(秋)         | センター広場 | R5(2023).9.15<br>～9.24                           | 12,000 人 |
| 14 | とっておきのまちなか音楽会               | センター広場 | R5(2023).9.17                                    | 1,000 人  |
| 15 | インドネシア日本友好祭                 | センター広場 | R5(2023).10.1                                    | 300 人    |
| 16 | つくばオクトーバーフェスト 2023【雨天中止】    | センター広場 | R5(2023).10.9                                    | 雨天中止     |
| 17 | つくば音楽祭つくばな匠                 | センター広場 | R5(2023).10.14                                   | 600 人    |
| 18 | よりみちコンサート in つくば            | センター広場 | R5(2023).10.22                                   | 500 人    |
| 19 | ワニナルフェス vol.2               | センター広場 | R5(2023).11.4                                    | 450 人    |
| 20 | つくばコーヒーフェスティバル 2023         | センター広場 | R5(2023).11.18<br>～11.19                         | 2,200 人  |
| 21 | 音と絵の具で遊ぼう                   | センター広場 | R5(2023).11.25                                   | 1,000 人  |
| 22 | つくばよさこい祭り                   | センター広場 | R5(2023).11.26                                   | 200 人    |
| 23 | つくばクリスマスマーケット               | センター広場 | R5(2023).12.8<br>～12.10                          | 2,000 人  |
| 24 | ランタンアート 2023                | センター広場 | R5(2023).12.16<br>～12.17                         | 5,000 人  |
| 25 | ウインターアドベンチャー                | センター広場 | R5(2023).12.23<br>～12.27                         | 328 人    |
| 計  |                             |        |                                                  | 92,481 人 |

## 第6章 (1)現状と課題

### B) エリアマネジメント団体によるイベントの実施

魅力あるまちなかを創るため、A) のうちエリアマネジメント団体によるパブリックスペースの活用の一環として、センター地区活性化協議会とセンター広場賑わい創出実行委員会（つくばまちなかデザイン株式会社）の共同主催でイベントを実施した。ウォータースライダーやプール、バンジートランポリンなどのアスレチック遊具の設置及び運営を行った「ウォーターアドベンチャー2023 in つくばセンター広場」では、ファミリー層を中心とした 1903 名もの来場があり、イベントの少ない夏季におけるセンター広場のにぎわい創出に貢献した。



### ■効果と課題

#### A) 効果

- 窓口をエリアマネジメント団体に一本化することで、ワンストップでイベント団体にイベントに関する各種支援を提供することができた。実際に「手続きが以前よりも簡易になった」「相談がしやすい」「市役所に行かずに、まちなかデザインと打合せすれば済むので助かる」などの意見が出ている。
- イベントが実施しやすくなったことで、イベントを実施したいと思う人や団体が増加している。
- イベントの実施数が増え、週末につくばセンター地区を訪れれば何かしらのイベントが開催されているという状況が生み出せている。
- 令和5年（2023年）度は新ペデカフェプロジェクトにより、例年よりも多くのイベントが開かれたが、センター地区で定期的にイベントが行われることにより、それを楽しみにする人が増え、まちのにぎわいが生まれている。市HPのイベント情報ページへのアクセスや、つくばまちなかデザイン株式会社が運営するSNS「ドまんなかつくば」のフォロワー数の増加にもそれが表れており、イベントごとの集客数も過去最高のものが多かった。
- 周辺事業者から、イベント時のTXの乗降客数が増加や、周辺の商業施設の来店者数が増加しているとの声もあり、にぎわいが生まれたことによる経済への波及効果が見られる。また、周辺の事業者から、定期的なイベント開催を望む声が上がっている。



### B) 課題

- イベント数の増加による劣化等により、無料で貸し出している物品の破損が多く発生しており、物品の更新に多くの費用を要している。またタイル修繕や清掃費、電気代など維持管理費も発生している。今後は更なる物品の充実や破損物品の更新や維持管理費の受益者負担に向け、一定の費用を徴収する仕組みを検討する必要がある。
- 売上を多くあげるイベントとイベント団体の持ち出しによって運営するイベントとの間の差が大きくなっていることから、費用を徴収する仕組みにした際には、イベントの実施が減少しないよう、徴収方法等を十分に検討する必要がある。
- イベント来場者が周辺施設に回遊し経済効果を創出しているが、更なる連携をすることで、更なるにぎわいを生むことができる。周辺店舗への影響についても確認しながら連携を進めていく必要がある。
- イベント開催数は増加しているが、さらにこの数を増やしていくための周知が不十分であるため、イベント支援の仕組みの周知を行っていく必要がある。
- センター広場は路面に透水性タイルを使用していることから、油汚れ等がタイルに染み込み、広場の美観が損なわれることがある。イベント後の清掃の方法や定期的な清掃方法について検討する必要がある。
- イベントのにぎわいが求められている一方、音楽イベントに対する周辺住民からの苦情や静かな雰囲気で広場でくつろぎたい利用者の存在など、イベントに特化した広場とするかについても検討が必要。

### イ 効果と課題（総評）

#### ① 効果

##### ○パブリックスペースの活用によるにぎわいの創出

実証実験やペデカフェによる支援を行うことにより、新たな来街者を誘発し、地区全体のにぎわいの創出が実現できている。

イベント実施へのハードルが次第に下がってきたことにより、イベントを実施したいと思う人や団体が増加し、実際に実施数が増えたことにより、週末につくば駅周辺を訪れれば何かしらのイベントが開催されているという状況が生み出せている。定期的にイベントがつくば駅周辺で行われたことにより、それを楽しみにする人が増え、まちのにぎわいが生まれており、地域の人々のまちへの満足度の向上につながっていると言える。

##### ○パブリックスペース自体に様々な仕掛けをすることによる集客や回遊性の向上

無料バーベキュー広場やペデトレインなど公共空間に様々な仕掛けをすることで新たな来街者の誘発に繋がった。また、イベント実施へのハードルを下げることにより、毎週末つくば駅周辺でイベントが行われている状態を作ることができている。

##### ○滞在時間の増加

オープンカフェ等を実施することにより、つくば駅周辺における来街者の滞在時間が増加した。

##### ○手続きの簡易化

窓口をエリアマネジメント団体に一本化することで、ワンストップで地域の団体に各種支援を提供することが可能となっている。

##### ○地域による取組の拡大

地域の団体と市やエリアマネジメント団体が協働で様々な取組を行うことで、団体の取組に対するハードルが下がり、結果として多くの取組の誘発に繋がった。

#### ② 課題

##### ○使いにくいパブリックスペースの存在

現在、センター広場でのイベント開催が非常に多いが、その理由として、電源等が整備されていることが挙げられている。そのため、他のパブリックスペースでも電源が設置されれば利用が増加すると考えられる。

##### ○パブリックスペースのコントロール

パブリックスペースを積極的に活用するためには、各取組をマッチングす

## 第6章 (1)現状と課題

ることやアドバイスをする「コーディネーター」の存在が必要である。また、常設的な取組においては、一過性の取組ではなく継続的な手法を考えていく必要があることから、つくば市による場所の提供やハード整備などの側面的な支援を受けながら、エリアマネジメント団体が中心となって運営を行うのが望ましい。

### ○物品支援に伴う費用について

無償で貸し出している物品の破損が多く発生していることや、維持管理費に費用が発生していることなどから、物品の補充などによって持続的に団体の支援を行うために、一定の条件で費用を徴収する仕組みの検討が必要である。

### ○支援基準の再整理

現在は、非収益の取組に対してのみ支援を行っているが、周辺施設への経済効果の拡大等を考えると今後は収益があるイベントに対する支援についても検討する必要がある。

### ○平日のにぎわい

平日のにぎわい創出にはまだ課題が残るため、週末同様につくば駅周辺に行けば何かしらの楽しいことが起こっていると思わせる取組が必要である。

### ○強風への対策

センター広場をはじめとして、年間を通して強風への対策が課題となっており、特に冬から春にかけてはイベントの実施が困難な状況となっていることから強風対策を検討する必要がある。

### ○イベント開催期間

他の地域では、1か月間にわたってクリスマスマーケットが実施されるなどといった事例もあるため、にぎわい創出のため、イベントの性質によっては長期間の開催が可能となるような制度変更についても検討する必要がある。

### ○つくばセンター広場条例の再整理

上記を踏まえ、センター広場で実施可能なイベントの幅を広げるため、その範囲を十分に検討した上で、条例や施行規則の再整理を行う必要がある。

### ○公共の広場としての役割とのバランス

センター広場は休憩や憩いの場としての機能や、道路としての交通機能を持った公共施設であり、イベントの内容や団体の性質をふまえ、市民のためにどのような使い方が望ましいかを配慮しながら検討する必要がある。

## 第6章 (2)パブリックスペースの活用に対する市民等の意見について

### (2) パブリックスペースの活用に対する市民等の意見について

#### ア アンケート調査

今後のパブリックスペースの活用について検討するためには、市民やつくば駅周辺の事業者等の意が重要であることから、以下のアンケート調査を実施した。

【再掲】

- ①市民、在勤在学者に対するアンケート（P3～）
- ②つくば駅周辺の事業所に勤務している従業員のアンケート（P28～）
- ③つくば駅周辺に立地する企業や団体を中心とした事業者に対するアンケート（P50～）

#### A) オープンスペース（パブリックスペース）に望むもの

「オープンカフェ」や、「食品、雑貨などが買えるマルシェ、朝市」を望む声が各アンケートで多く、市民を中心に「子どもが遊ぶことができる場やプレイパーク」や、「ベンチやイス、テーブルなどの休憩スペース」に対する要望も多く出ている。

従業者からは、『食』に関連する要望が多い一方で、事業者からは「人とロボットが共存している場」や「科学に触れることができる場」といった『つくばらしさ』を求める声が最も多い結果となった。

なお、主体ごとには以下の意見が多く出された。

| 主体                          | 多い意見                                                                                          |
|-----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①市民、在勤在学者<br>(市民アンケート問15)   | 1位「オープンカフェ」<br>2位「子どもが遊ぶことができる場やプレイパーク」<br>3位「食品、雑貨などが買えるマルシェ、朝市」<br>4位「ベンチやイス、テーブルなどの休憩スペース」 |
| ②つくば駅周辺従業者<br>(従業者アンケート問18) | 1位「オープンカフェ」<br>2位「食品、雑貨などが買えるマルシェ、朝市」<br>3位「日常的なキッチンカーの出店」<br>4位「飲食、物販イベント」                   |
| ③つくば駅周辺事業者<br>(事業者アンケート問8)  | 1位「人とロボットが共存している場」<br>1位「科学に触れることができる場」<br>3位「緑豊かな景観」<br>3位「子どもが遊ぶことができる場やプレイパーク」             |

## 第6章 (2)パブリックスペースの活用に対する市民等の意見について

### B) 隣接しているオープンスペース（パブリックスペース）でやってほしい取組【つくば駅周辺事業者】

つくば駅周辺に立地する企業や団体を中心とした事業者に対しては、自らの事業所に隣接するパブリックスペースに望むものについて、追加で質問をしたところ、前設問と比較して「オープンカフェ」や「食品、雑貨などが買えるマルシェ、朝市」が順位を上げており、『その場に滞留を生む』取組が多く選択された。

| 主体                         | 多い意見                                                                      |
|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| ③つくば駅周辺事業者<br>(事業者アンケート問9) | 1位「オープンカフェ」<br>2位「食品、雑貨などが買えるマルシェ、朝市」<br>2位「緑豊かな景観」<br>2位「人とロボットが共存している場」 |

### イ 市民ワークショップ

今後のパブリックスペース活用に関する具体的な取組を検討するため、市民ワークショップを実施した（詳細は P61～）。【再掲】

多かった意見として、つくば駅周辺に南北に公園その他の施設が点在するため、移動を容易にするためのロードトレイン等の運行や、ペDESTリアンデッキ上を走るための自転車や貸出しといった『モビリティ』に関するものや、ベンチや椅子、テーブルを全体的にもっと設置したいといった『憩い（休憩スペース）』に関する意見が各班で上がっていた。

オープンカフェやマルシェ・キッチンカーの出店に関する意見や、イベントについても飲食だけでなく、音楽から防災に至るまで様々な意見が出るなど、『にぎわい』に関する要望も多かった。

その他、つくば駅周辺が暗いという意見から街灯やイルミネーション（防犯上、景観上双方）に関する意見も多く、公園などに防災機能を求める班もあるなど『景観』や『安全安心』への要望も見られた。

なお、つくば駅周辺で実施したいパブリックスペースに活用に関する取組として、主に以下のような意見が挙げられた。

| 分類   | 主な意見【実施場所】                                                                              |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| にぎわい | ・マルシェ、キッチンカー、フリーマーケットの定期的な出店や開催【センター広場、ペDESTリアンデッキ】<br>・イベント（音楽、飲食、クリスマスマーケット、ゲームコラボ）【セ |

## 第6章 (2)パブリックスペースの活用に対する市民等の意見について

|       |                                                                                                                                            |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | ンター広場、近隣公園】<br>・ 駐車場や近隣公園での野外映画館【駐車場、近隣公園】<br>・ ストリートライブ【ペDESTリアンデッキ】<br>・ 無人店舗（キオスク）【ペDESTリアンデッキ】<br>・ アンテナショップ【駅前】                       |
| 憩い    | ・ オープンカフェ【センター広場、ペDESTリアンデッキ】<br>・ テーブルや椅子の配置【センター広場、ペDESTリアンデッキ】<br>・ ベンチ【全体】                                                             |
| 自然・景観 | ・ イルミネーション【センター広場、ペDESTリアンデッキ】<br>・ 市民活動によるガーデニング【ペDESTリアンデッキ】                                                                             |
| 子ども   | ・ 水遊びスペース【センター広場、ペDESTリアンデッキ】<br>・ 子どもからプロまで発表ができる場【センター広場、ペDESTリアンデッキ】                                                                    |
| 心身の健康 | ・ ドライミスト【センター広場、ペDESTリアンデッキ】                                                                                                               |
| 移動    | ・ ペデトレイン（ロードトレイン）、ポニー（馬車）【ペDESTリアンデッキ】<br>・ ペデチャリ、ペデキックボード【ペDESTリアンデッキ】                                                                    |
| 科学    | ・ サイエンスカフェ【センター広場、ペDESTリアンデッキ】                                                                                                             |
| 文化・芸術 | ・ アートイベント【センター広場、近隣公園】                                                                                                                     |
| 安全・安心 | ・ 街灯、フットライト【ペDESTリアンデッキ】<br>・ 防災設備・拠点の設置、防災イベントの実施【センター広場、近隣公園】<br>・ 防災イベント【センター広場、近隣公園】<br>・ 綺麗なトイレの整備【駅前、ペDESTリアンデッキ】<br>・ Wi-Fi の整備【全体】 |

### ウ つくば駅周辺事業者意見交換会

今後のつくば駅周辺のまちづくりの在り方について検討するため、地域の事業者による意見交換会を実施した（詳細は P58～）【再掲】

パブリックスペースの活用に関連する意見としては、事業者間の連携についての議論において、災害発生時の備蓄や避難場所など、防災に関する連携について複数意見が出たほか、イベントやイルミネーションでの連携についての提案もなされた。

モビリティに関する議論において、自転車を多く利用する学生向けの電動キックボードや、2人～4人乗りのモビリティの需要について意見が出ている。



### (3) パブリックスペースを活かしたまちづくりの方向性(案)

P127でも示したとおり、つくば市は、まちづくりヴィジョンの実現のために、まちづくり戦略において、4つの方針と9つの重点戦略を定め、中でも市が先頭に立って優先的に進める事業を8つの「リーディングプロジェクト」として位置づけている。

その中の一つとして「地域と連携したパブリックスペースの活用」が定められており、このことから、まちづくりヴィジョン実現のためにはパブリックスペースの活用は必要不可欠であると言える。

アンケート等では、つくば駅周辺に対し「にぎわい」を求める声が多く、パブリックスペースに対しては「にぎわい」のほか、「子どものためのスペース」や「憩い」、「つくばらしさ」を求める声が多かった。

以上を踏まえ、つくば市におけるパブリックスペースの活用したまちづくりのイメージを以下に(案)として示す。

- |     |             |
|-----|-------------|
| 方針1 | まちの「つなぎ役」   |
| 方針2 | 「にぎわい」の創出   |
| 方針3 | すべての人の「居場所」 |

各方針の詳細は以下のとおりである。

#### 方針1 まちの「つなぎ役」

空間と空間とを繋ぐだけでなく、まちの機能や人々の心を繋ぐことによって、まちを一体化させる。

##### 1-1 シームレスにつなぐ

私有空間(店舗等)同士や、私有空間と公共空間をつなぐ「中間領域」としてまちの一体化を図る。また、小型モビリティなどでまちなかの移動を支えることでまちの回遊性を高める。

##### 1-2 景観をつなぐ

緑豊かな環境や眺めの良いビュースポットにより、まち同士を繋ぎ、景観をつくっていく。

##### 1-3 心をつなぐ

イベントその他の交流の場の提供により訪れた人々の心をつなぎ、また、憩いの場の提供や安全に過ごせる場所の提供等により誰もが安心して利用できる環境をつくる。

## 第6章 (3)パブリックスペースを活かしたまちづくりの方向性(案)

### 方針2 「にぎわい」の創出

パブリックスペース自体を活用したイベントやしかけづくりにより、まちににぎわいを創り出す。

#### 2-1 地域の交流の促進

オープンカフェやベンチ(椅子)・テーブルの提供による憩いのスペースの提供や、イベントを通じて、地域住民の交流を促進させる。

#### 2-2 多様なイベントを開催

定期的なイベントの開催や日常的なキッチンカーの出店、マルシェ・朝市の開催などにより、人々の滞留や回遊性を生み、地域経済の活性化を促進させる。

#### 2-3 情報の発信、共有

コミュニティ掲示板の設置等によって地域の情報を積極的に発信・共有することで、人流を生み出す。

### 方針3 すべての人の「居場所」

子どもから高齢者までのすべての人が様々なチャレンジをしたり、リラックスしたりできる場など、訪れる人々の多様な想いを叶える居場所の提供を行う。

#### 3-1 地域のチャレンジする人を応援

地域で活躍する人・チャレンジする人を支援し、多様な活動や発表の場を提供することで、その人々の自己実現や、まちのにぎわいの創出を目指す。また、モビリティの自動運転やロボットなど、科学技術の社会実装を進めるための実証実験が促進される場としても有効となる。

#### 3-2 子どもの遊び場、学び場

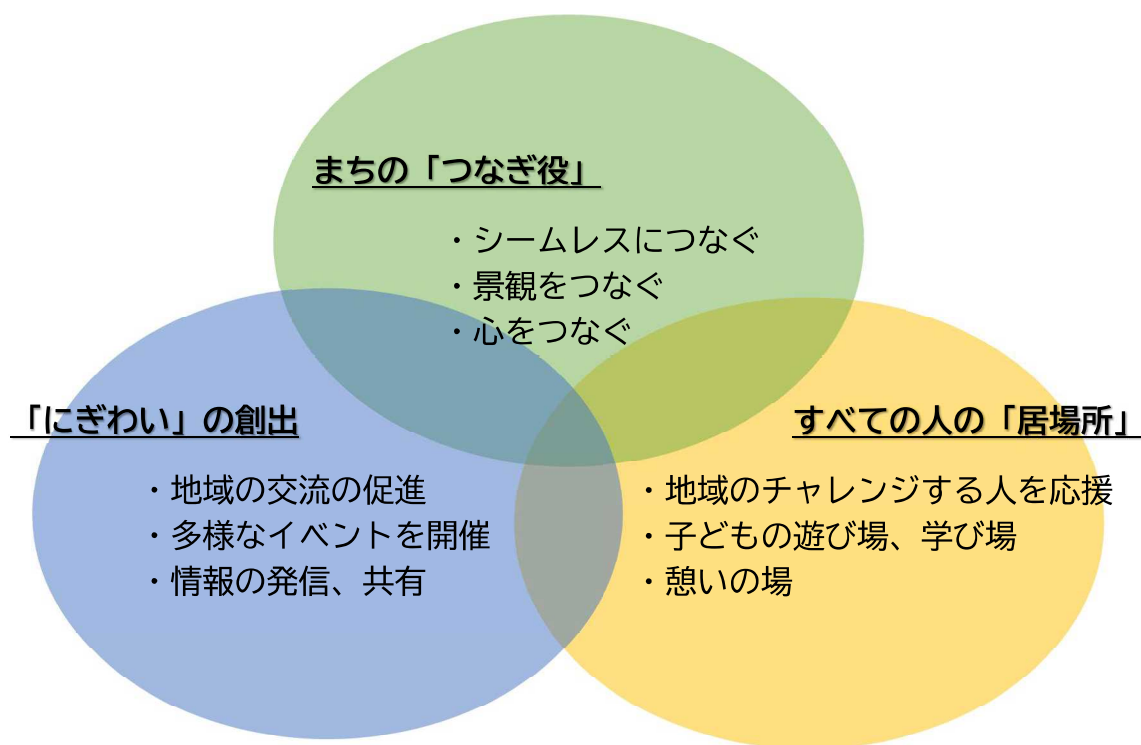
遊具やプレイパークの提供等により子どもの安全な遊び場所の確保し、学習場所、科学などの様々な知見に触れられる場所の提供により教育機会の拡充を図る。

#### 3-3 憩いの場

オープンカフェやベンチ(椅子)、テーブルの設置等により、誰もがくつろげる居場所の提供を行う。

上記の方針は、図のように互いに密接に関連しているため、これらを意識した相互的な取組を行っていくことが「つくばらしい」パブリックスペースの活用につながると言える。

第6章 (3)パブリックスペースを活かしたまちづくりの方向性(案)  
(4)望ましい取組



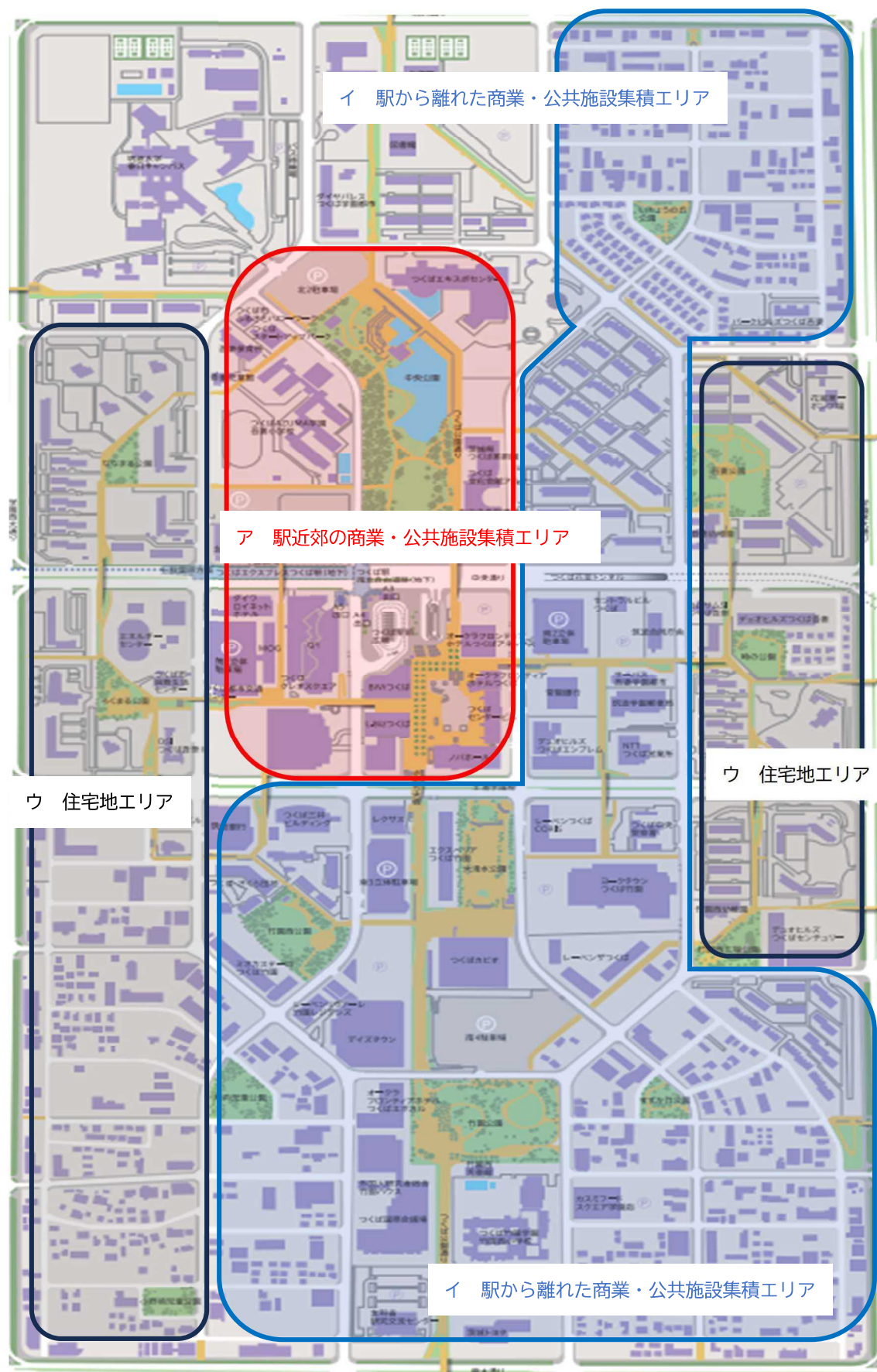
(4) 望ましい取組

上記の方針を実現するために必要な取組について、アンケート等を踏まえ以下のとおり整理する。

なお、整理に当たっては、つくば駅周辺でもエリアによって居住人口や密度、交通量など、特色が異なることから、以下の3つに分けて整理をする。

- ア 駅に近接している商業・公共施設集積エリア
- イ 駅から離れた商業・公共施設集積エリア
- ウ 住宅地エリア

## 第6章 (4)望ましい取組



ア 駅に近接している商業・公共施設集積エリア

① 望ましい活用の方向性

- ・ イベントスペースやオープンカフェの提供など、人々が集まりやすい空間づくりが必要。
- ・ 人々の滞留や周辺の商業施設への回遊が生まれるような取組が望ましい。
- ・ 駅から近く交通量も多いため、多くの集客が見込める。
- ・ 大規模なイベントの実施が可能である。

② 活用での注意点

- ・ つくばの玄関口であるため、広域から人を集めるような取組が必要である。
- ・ 駅周辺は交通量が多くなる傾向にあるため、イベントや空間づくりに伴う混雑に対する対応など通行者に対する配慮が必要である。
- ・ 図書館など文化的な施設付近においては、音の発生に注意すべきである。

③ 活用が考えられる取組

| 分類    | 取組                                                                                                                                                                                            |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| にぎわい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マルシェ、朝市、フリーマーケット</li> <li>・ キッチンカーの出店</li> <li>・ 飲食イベント</li> <li>・ 音楽イベント</li> <li>・ ストリートパフォーマンス</li> <li>・ 野外映画館</li> <li>・ バーベキュー場</li> </ul>     |
| 憩い    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オープンカフェ</li> <li>・ ベンチ、椅子、テーブルなどの休憩スペース</li> <li>・ 芝生エリアの創設</li> </ul>                                                                               |
| 自然・景観 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緑豊かな景観づくり（植栽、維持管理等）</li> <li>・ 眺めの良いビュースポットの設置</li> <li>・ イルミネーション</li> <li>・ ボートやカヌー体験</li> <li>・ アウトドアパーク</li> <li>・ 屋外コワーキング</li> </ul>           |
| 子ども   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレイパーク（子どもの遊び場づくり）</li> <li>・ 自習ができるフリースペースの設置</li> <li>・ 子どもの一時預かり所の設置</li> <li>・ 送迎付きの保育ステーション</li> <li>・ 子育て世代の交流イベント</li> <li>・ 移動図書館</li> </ul> |

## 第6章 (4)望ましい取組

|       |                                                                                                                                                                                                                               |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | ・水遊びスペース、イベント                                                                                                                                                                                                                 |
| 心身の健康 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットと過ごせる場づくり（ドッグラン等）</li> <li>・体を動かせる場づくり</li> <li>・ウォーキング、ランニング専用コースの設置</li> <li>・スポーツイベント</li> <li>・e スポーツ大会</li> <li>・足湯スペース</li> <li>・ドライミストの設置</li> <li>・暖炉、焚火スポットの設置</li> </ul> |
| 移動    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロードトレイン等のペDESTリアンデッキ移動手段の整備</li> <li>・（電動）自転車やキックボードの貸出</li> <li>・自転車専用レーンの設置</li> </ul>                                                                                              |
| 科学    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学イベント</li> <li>・科学に触れられる場（サイエンスカフェ等）</li> <li>・ロボットやテクノロジーを活用した取組（無人店舗等）</li> </ul>                                                                                                  |
| 文化・芸術 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アートなどの芸術イベント</li> <li>・作品等を展示（発表）できるスペースの設置</li> <li>・まちの歴史に触れられる場づくり</li> <li>・歴史や文化を感じられるイベント</li> </ul>                                                                            |
| 安全・安心 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・街灯やフットライトによる明るい道の整備</li> <li>・避難場所などの防災機能の付与</li> <li>・防災イベント</li> </ul>                                                                                                              |

### イ 駅から離れた商業・公共施設集積エリア

#### ① 望ましい活用の方向性

- ・ 駅近接エリアと比較して、周辺に住宅があることから、近隣住民や市民を主な対象とするような中規模の取組が望ましい。
- ・ 緑豊かな環境であるため、来街者が自然と触れ合えるような環境づくりを行うことが望ましい。
- ・ つくば国際会議場には、多くの来街者が訪れるため、つくばらしさを見せる取組も効果的である。
- ・ 竹園西小学校周辺では、学校と周辺施設・住民をつなげるようなイベントや取組の実施が望ましい。

#### ② 活用での注意点

商業や公共施設が立ち並ぶ中に住宅が混在するエリアであることから、騒音対策など地域住民への一定の配慮が必要。

## 第6章 (4)望ましい取組

### ③ 活用が考えられる取組

| 分類    | 取組                                                                                                                                             |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| にぎわい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽イベント</li> <li>・ストリートパフォーマンス</li> <li>・野外映画館</li> <li>・バーベキュー場</li> </ul>                             |
| 憩い    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンカフェ</li> <li>・ベンチ、椅子、テーブルなどの休憩スペース</li> <li>・芝生エリアの創設</li> </ul>                                   |
| 自然・景観 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑豊かな景観づくり（植栽、維持管理等）</li> <li>・眺めの良いビュースポットの設置</li> <li>・イルミネーション</li> </ul>                            |
| 子ども   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレイパーク（子どもの遊び場づくり）</li> <li>・子育て世代の交流イベント</li> <li>・移動図書館</li> <li>・水遊びスペース、イベント</li> </ul>            |
| 心身の健康 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットと過ごせる場づくり（ドッグラン等）</li> <li>・体を動かせる場づくり</li> <li>・ウォーキング、ランニング専用コースの設置</li> <li>・スポーツイベント</li> </ul> |
| 移動    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロードトレイン等のペDESTリアンデッキ移動手段の整備</li> <li>・（電動）自転車やキックボードの貸出</li> <li>・自転車専用レーンの設置</li> </ul>               |
| 科学    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学イベント</li> <li>・科学に触れられる場（サイエンスカフェ等）</li> <li>・ロボットやテクノロジーを活用した取組（無人店舗等）</li> </ul>                   |
| 文化・芸術 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アートなどの芸術イベント</li> <li>・まちの歴史に触れられる場づくり</li> <li>・歴史や文化を感じられるイベント</li> </ul>                            |
| 安全・安心 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・街灯やフットライトによる明るい道の整備</li> <li>・避難場所などの防災機能の付与</li> <li>・防災イベント</li> </ul>                               |



## ウ 住宅地エリア

### ① 望ましい活用の方向性

- ・ 家族や近隣の住民同士が交流できる環境の提供が必要である。
- ・ 子どもたちが安全に遊べる環境の提供が必要である。
- ・ 住環境と直接結びつくエリアであるため、憩いやウェルビーイングに繋がる取組が望ましい。

### ② 活用での注意点

- ・ 静かな環境を望む方も多いため、音や匂いには十分注意を払う必要がある。
- ・ 住民のプライバシーを損なわないよう、強制的ではなく自由に参加・利用できるように取組とする必要がある。
- ・ 地域が主体となった取組とすることが必要である。

### ③ 活用が考えられる取組

| 分類    | 取組                                                                                                                                                          |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| にぎわい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マルシェ、朝市、フリーマーケット</li> <li>・ 地域の交流イベント、お祭り</li> </ul>                                                               |
| 憩い    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベンチ、椅子、テーブルなどの休憩スペース</li> <li>・ 芝生エリアの創設</li> </ul>                                                                |
| 自然・景観 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緑豊かな景観づくり（植栽、維持管理等）</li> <li>・ イルミネーション</li> </ul>                                                                 |
| 子ども   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレイパーク（子どもの遊び場づくり）</li> <li>・ 子育て世代の交流イベント</li> <li>・ 移動図書館</li> <li>・ 水遊びスペース、イベント</li> </ul>                     |
| 心身の健康 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペットと過ごせる場づくり（ドッグラン等）</li> <li>・ 体を動かせる場づくり</li> <li>・ ウォーキング、ランニング専用コースの設置</li> <li>・ スポーツイベント（地域の運動会等）</li> </ul> |
| 移動    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自転車専用レーンの設置</li> </ul>                                                                                             |
| 安全・安心 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 街灯やフットライトによる明るい道の整備</li> <li>・ 避難場所などの防災機能の付与</li> <li>・ 防災イベント</li> </ul>                                         |

## 第6章 (5)実現に向けた仕組みの検討

### (5) 実現に向けた仕組みの検討

(4)で示した具体的な取組を実施するに当たり、ハード面の整備とソフト面(仕組み)の整理が必要となる。以下に整備や検討が必要と思われる事項をそれぞれ示す。

#### ア ハード整備

| 分類         | 設備                 | 効果                                        |
|------------|--------------------|-------------------------------------------|
| インフラ       | 電源盤                | 電気機器を使用するあらゆる取組で必要                        |
|            | 給排水設備              | 飲食店の出店に必須                                 |
|            | 常設の大屋根             | 天候に左右されないスペースの活用が可能                       |
|            | 収納可能な屋根            | 天候に左右されないスペースの活用が可能<br>(晴天時のスペースの有効活用も可能) |
|            | 街灯<br>フットライト       | 夜間の取組への集客に寄与<br>治安の維持にも貢献                 |
| 建物         | テント<br>即時出店可能な屋台   | 出店や場の整備に掛かる負担を軽減                          |
|            | キオスク               | 来街者の利便性向上                                 |
|            | 倉庫                 | 物品収納が可能                                   |
|            | 埋め込みフック            | テントの風対策のための固定が可能                          |
| 移動         | 小型モビリティ<br>ロードトレイン | 南北に長いセンター地区の移動を容易にし、回遊性の向上に寄与             |
| 憩い<br>(防災) | ベンチ<br>テーブル        | 出店や場の整備にかかる負担を軽減<br>防災対応型であれば災害時にも使用可能    |
| 映像         | 移動型スクリーン           | 情報の表示や屋外映画館での使用が可能                        |
| 音響         | 音響機材               | 音楽イベントやステージでの使用が可能                        |
| 情報         | 掲示板・看板             | イベント等の情報発信のため                             |
| 通信         | Wi-Fi 環境整備         | 電子決済が可能となる<br>利用者及び出店者の利便性の向上             |

## 第6章 (5)実現に向けた仕組みの検討

### イ ソフト（仕組み）

現在までの取組の課題等を踏まえ、新たな支援の仕組みとして以下が考えられる。

#### 特徴1

エリアマネジメント団体が、団体の窓口となり、ワンストップで支援する。  
(現制度と同様)

#### 特徴2

持続的なにぎわい創出に向け、営利的な取組も実施可能とする一方、団体から支援費を徴収する。(イベント売上の数%を徴収する)

#### 特徴3

占用料等は公共公益目的の取組の場合は減免とし、それ以外の場合は徴収する。  
減免とする仕組みは検討が必要である。

#### 特徴4

占用許可等の手続きについて、都市再生推進法人を経由して申請ができる制度  
(都市再生特別措置法第62条の8関係)を利用する等して、占用にかかる申請窓口をすべてエリアマネジメント団体(都市再生推進法人)に一本化する。

